



## 登下校の安全のために

校長 関根 弘

秋の全国交通安全運動が9月21日から9月30日まで実施され、全国各地で様々な取り組みが行われておりました。

私は、通常、児童の登校を校門で迎えるようにしていますが、時々町に出て子供たちの様子を見に行っています。9月に入ってからは、子供たちの安全をより強化したいと考え、見回りの回数を増やし、午前8時頃より自転車で学区域を観察して参りました。

それぞれの場で、子供たちとあいさつを交わし、歩き方について気付いたことは、その場で指導したり、褒めたりしてきました。

そして、後日、児童朝会で以下のような話をしました。

先週、みなさんの登校している様子を見るために、朝、自転車で学区域を走っていました。私に気付いてあいさつをしてくれた人がたくさんいました。すれ違わなくても、遠くから私の姿を見かけた人もいたのではないのでしょうか。

さて、みなさんの登校の様子ですが、気になることがいくつかありました。

友達と一緒に仲良く登校するのはとても良いことなのですが、お話に夢中になって、周りが見えなくなっている人がいました。また、3～4人の友達と一緒に歩き、横に広がってしまっている人もいました。前、後ろ、左、右を確かめずに道路を横切ったり、渡ったりする人もいました。

道路はみんなのものです。歩く人もいれば、自転車で走る人もいれば、車も走ります。多くの人が使う道路ですから、ルールを守って使わなくてはなりません。ルールを守らないと、思ってもいない事故にあってしまうかもしれません。

道路を歩くときは、できるだけ道のはじを通るようにしましょう。

道路の中の方を歩いていると、自転車や車とぶつかってしまう危険が高まってしまいます。

次に、道路を歩くときは、大勢の人と一緒に歩かないようにしましょう。大勢の人と一緒に行動すると、どうしても、広がって歩くことになりやすくなってしまい、歩く人や自転車や車が通るじゃまになってしまいます。

また、どんなに狭い道路でも反対側に移動する、道を横切るときは、車や自転車が前や後ろから来ていないか、自分の目で何度も確かめてから行動するようにしてください。

今、お話ししたことは、登校の時だけでなく、学校から家に帰るとき、また、その他出かけるときは、どんな時でも守れるようにしてほしいと思います。

事故に遭わないように、けがをしないように、大切な命を自分で守るようにしてください。

さらに、各学級でも登下校の安全指導を、具体的な事例をあげて指導致しました。

さて、登校指導においては、子供たちの安全のために、本校の学童擁護員をはじめ、多くの方のご協力をいただいております。

- スクールガード・こども見守り隊として、毎朝同じ場所に立って見守っていただいている方。
- 同じマンションに住んでいる子供たちを集合させ、一緒に登校して下さる方。
- 自分の子も含め、数人の子供と共に一緒に登校してくる方。
- 家の前まで出て、子供を見守っている方
- 敷地内だけでなく、道路にまで出て、子供たちに声をかけ、安全を見守ってくれるマンションの管理人の方。
- 志村警察の方。

このように多くの皆様に見守っていただいていることに感謝しております。

各ご家庭におかれましても、「自分の命は自分で守る」という観点も含め、できるだけ具体的に道路での歩き方、自転車の乗り方について、再度、お話していただけますようお願いいたします。

